

連載 河北潟の仲間たち ①

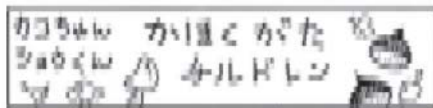
第1回 チュウヒ

チュウヒは、草原に棲む猛禽類（もうきんるい：タカやフクロウの仲間）です。チュウヒは、もともと河北潟にいた鳥でなく、干拓後に新しく河北潟の仲間となった鳥のようです。

河北潟でのチュウヒの繁殖が最初に確認されたのは1974年です。そのころの河北潟は、干拓地の干陸が完了していましたが、まだ農地の整備が進んでおらず、広大なヨシの草原が広がっていました。おそらく新しい住みかを求めて彷徨っていたチュウヒが、この場所を見つけ、自分のすみかとしたのだと思います。

この河北潟での繁殖の確認は、本州での最初のチュウヒの繁殖の確認でした。平地の広い草原を好むチュウヒには、開発の進んだ本州の平野はもともと、あまり住みやすい場所ではないようです。現在、日本で繁殖が確認されている場所としては、北海道にいくつかの湿原がありますが、本州では、三重県の本宮干拓地などわずかの場所に限られています。栃木県の渡瀬遊水池はチュウヒの冬季の飛来地としてよく知られていますが、現在は繁殖はしていないようです。毎年3月中旬に行なわれている一斉の火入れが、繁殖できない原因となっている可能性が指摘されています。かつて繁殖が確認されていた八郎潟でも、現在では、チュウヒは繁殖していないようです。河北潟は現在でも繁殖が続いており、本州での最も重要なチュウヒの繁殖地の一つとなっています。

河北潟は、最近大きく様相を変えつつあります。干拓地では農業が活気づき、訪れる人も増えました。湖面でのレジャー人口が増えています。人々が河北潟に関心を持ち、河北潟との関わりを持つようになったことはすばらしいことです。今後、河北潟の環境問題にも注目する人が増え、河北潟の環境保全が進むことが期待されます。しかし同時に、チュウヒにとっては、河北潟のヨシ原が減り人が目立つことで、だんだんと住みにくい環境になってきたようです。



河北潟を気に入って住みつけた新しい仲間チュウヒが住み続けられるような環境を守りつつ、河北潟と人との関係も深めていくことが、河北潟が河北潟らしい特徴を保ちながら人々にとっても大切な場所となることに繋がると思います。河北潟を訪れた際には、ぜひチュウヒがどこかにいないか、探してみてください。ヨシ原の上にV字飛行の悠々とした姿を見かけることができるかも知れません。チュウヒがどんな姿をした鳥かという、このニュースレターのタイトルの横に書かれている図です。（文：高橋 久 今後不定期掲載の予定）